Reduction in mortality from implantable cardioverter-defibrillators in non-ischaemic cardiomyopathy patients is dependent on the presence of left ventricular scar

Eur Heart J. 2018 Aug 10. doi: 10.1093/eurheartj/ehy437. [Epub ahead of print]

【目的】

非虚血性心筋症患者（NICM）において、植込み型除細動器（ICD）の一次予防植え込みによる死亡率改善効果に関しては結論が出ていない。NICM患者における心臓MRI（CMR）で検出される左室瘢痕の所見は、重症不整脈発生と関連している。NICM患者におけるICD一次予防植え込みによる死亡率改善において左室瘢痕所見の関与を検討した。

【方法と結果】

NICM, 左室駆出率（LVEF） 35%以下の連続452人の心不全患者（NYHA II-III）を心臓MRIサービスから抽出。すべての患者は欧州心臓病学会のICD一次予防植え込みガイドラインを満たしているが、植え込みに関しては、治療医の判断でなされた。患者背景およびCMRデータは前向きに記録され、心不全mortality score (MAGGIC)が計算された。Primary outcomeはLV瘢痕により層別化されたICDの有無による全死亡。フォローアップの中央値は37.9ヶ月で、ICD一次予防植え込み施行した症例と施行しなかった症例の間では、MAGGIC scoreに差はなかった(19.30 ± 5.46 vs. 18.90 ± 5.67, P = 0.50)。LV瘢痕のない患者において、ICD植え込みは予後を改善しなかった【hazard ratio (HR) = 1.22, 95% confidence interval (CI): 0.53–2.78, P = 0.64】。LV瘢痕のある患者において、ICD植え込みは死亡率減少と独立して関連していた（HR = 0.45, 95% CI: 0.26–0.77, P = 0.003）。

【結論】

NICM患者において、ICDの一次予防植え込みがLV瘢痕のある患者における死亡率減少と唯一関連していた。従来のガイドラインと比べて、この結果は、植え込みが必要なNICM患者のより効果的な選別を可能とするかもしれない。